

「学び合う集団づくり」に向けて

域内町村教育委員会及び各校におかれましては、今年度における教育事務所関連の事業に御協力いただき、誠にありがとうございました。現在は卒業式を無事に終え、徐々に次年度の準備に取りかかっていることかと思えます。ご存じのとおり、**子供たちと出会う4月の1週目は、「黄金週間」とも言われ、重要な期間になります。**わくわくして新学期を迎える子供、不安を抱えながら新学期を迎える子供など、一人一人が様々な思いをもって登校してきます。**わくわくしている子供のやる気を全体に広げ、不安を抱えている子供の困り感を取り除いていくような、「子供が真ん中」に据えた教育活動を行っていきましょう。**そのためには、1月に先生方にお配りした補足資料6「生徒指導の実践上の視点を生かした授業づくり」が大切です。教育事務所としても、子供たちの健やかな成長を願うとともに、先生方の思いや願いに応えられるよう、より一層努めて参ります。どうぞよろしくお願ひします。

今号では、主に小学校向けの事例を紹介していますが、中学校におかれましても、4月からの「学び合う集団づくり」の参考にしてください。

子供たちに「何が大切なことなのか」を認識させていく教師の関わり方の例



話し合う力を伸ばしたい学級に対して

友だちに対して一生懸命に伝えようとしたり、話している友だちの方を向いて聞いたりしている子供を見取るぞ。よい姿は大いに価値付けて、「こんな学び方が求めている姿だよ。1年間、大切にしていこうね」と、そのよさを全体に広めていくようにしていこう！

学び方を定着させていきたい学級に対して

この学級は、学習に向かう姿勢が定着していないと聞いている。この学級は、教師から指導されるより、**子供たちの内面に働きかけ「もっとこういう学級にしていきたい」と子供自身に「自己決定」をさせていくことの方が有効なのではないか。**だから、4月の最初は「子供たちのよいところ」と「まだまだ伸ばせるところ」をじっくりと見取るために、**子供たちに委ねる授業**を行っていきこう。終末には、「みんなの姿を見ていて、あれ？と感じたことがあるんだけど、何だと思う？」などと問いかけ、この学級のよさや伸ばしたいところを子供たちが**見つめる時間を設け、「まだまだな部分」を子供たちに見つめさせていく**ようにしよう。そうすることで、「**こうなりたい自分たちの姿**」を全員にイメージさせ、大切にしていきたいことを自分事として認識させていくぞ！



補足資料6 「生徒指導の実践上の視点を生かした授業づくり」

自ら学ぶとする子供を育てるには、「正しい学び」を認め、伸ばすことが大切です。授業は生徒指導の視点から、学びの場を「学び合う場」にする必要があります。

【生徒指導の視点上の視点】
 ○自己決定の視点
 ○対話の視点
 ○共通の目標設定の視点
 ○学習意欲の視点

「授業」における生徒指導の実践上の視点を生かした例

【事例1】授業の導入で、生徒の学びの意欲を高める。

【事例2】授業の展開で、生徒の学びの意欲を高める。

【事例3】授業のまとめで、生徒の学びの意欲を高める。

<学級づくりで大切にしたいこと>

- ★「こういう学び方がいいんだ」と、自分（たち）が無意識に行っている学び方が価値あるものであると気付かせていくこと。
- ★「こういう自分（たち）になってみたい」を子供たちから引き出し、自己決定させ、その後の授業で目指す姿が見られた場合は大いに称賛し、この学級のよさを実感させていくこと。

補足資料6を御活用ください

年度始めの「学び合う集団づくり」に向けた授業の例 ～大根抜き～

昨年の8月に開催した「学級・授業づくりセミナー」において、小学校における年度始めの授業の一例として「大根抜き」を紹介しました。体育科だけではなく、特別活動やレクリエーションの時間としても実践できる内容です。なお、あくまでも一例ですので、実践する際は、各学級の実態を考慮して行ってください。実態に合わない場合は、以下の内容や意図を参考にしながら、別の実践を行うことも有効です。

- ① 体育館床に引いてあるバスケットボールのサークル部分を使用する。
- ② 5～10人程度のチームをつくる。
- ③ 一方のチーム（Aチーム）は頭をサークルの中心に向けたうつ伏せまたは仰向けの状態でサークルの中に入る。
- ④ もう一方のチーム（Bチーム）は、サークルの外を囲むように待つ。
- ⑤ 笛の合図で開始。Bチームは、Aチームの子供の脚を持ってサークルの外に出すように引っ張る。Aチームは外に出されないようにカー杯粘る。
- ⑥ Aチームの最後の子供がサークルから出たら終了。そのタイムを記録する。
- ⑦ 攻守を交代し、①～⑥を繰り返してタイムを競う。（これを2回繰り返す）



「大根抜き」では次のような姿を見取ることができます

カー杯楽しんでいる姿

円陣を組んで、チーム一丸でがんばろうと意欲を高めている姿

「お願いします！」と相手に対してあいさつをする姿

チームを懸命に応援する姿

相手がいたから楽しめたというノーサイドの精神

1回目の対戦での経験をもとに、2回目の作戦を考える姿

考えた作戦を意識しながら実践する姿

サークルのラインから出されないように、指先が出るまで粘り強く最後までやりぬく姿

ズボンを引っ張らない、相手が痛がっていたら手を離すなどの相手を思いやる・ルールを守る姿

勝って喜ぶ姿 負けて悔しがる姿



1回目のゲームでは、きっと簡単に引き抜かれてしまうことでしょう。2回目のゲームに向かう子供たちは、「腕を組み合って寝そべる」、「引き抜いたら、すぐに手助けに向かう」などの作戦を考えるはず。きっと様々なよい姿が表出すると思います。それらの姿に込められた思いや願いのよさを見取り、その学び方が値あるものであると意味付けていきましょう。

振り返りでよさを実感させる

- T:「大根抜きをやってみて、どうだった？」
 C:「楽しかった！」
 T:「どうして楽しいと感じたのかな？」
 C:「だって、・・・」



終末の教師の価値付け場面で意味付ける

- T:「みんなの姿を見ていて、〇〇の場面でもとてもいいなと感じたことがあったんだけど、何だか分かる？」
 C:「あー！たぶん、□□のことだ」
 T:「そう！それ以外にも、みんながカー杯、協力していたよね」
 T:「こんな授業を続けていこうね！」

このような子供たちに気付かせていく授業の後に、「学級目標」を決めていく時間を設けることも有効です。子供一人一人が「なってみたい学級像」を思い描き、「自分（たち）事」の学級目標を立てるために真剣に考える姿につながる意図的なカリキュラム・マネジメントが大切になってきます。

